

2019年01月29日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ポジション調整は、強制される前に自らするもの】

一般論としての「ポジション調整」について、説明をしようと思います。

急な円高の際には、「ポジション調整」という言葉がよく使われます。

たとえば、ドル/円レートが上昇する場合には、当然、誰かがドルを買っています。

しかし、相場は、上下動を繰り返す習性がありますから、価格が上昇したところで、いったん「利食いの売り」を行おうとする市場参加者が、必ずいます。

あるいは、ドル/円レートが上昇すると考えてドルを買ったものの、思惑に反して相場が下落することもあります。

そういったときには、損失を回避するために、「損切りの売り」を行って、保有しているドル/円(USD/JPY)のポジションを少なくする市場参加者が出てきます。

このように、保有しているポジションを小さくすることを「ポジション調整」と言います。

相場の動きは、上下動を繰り返す習性があります。

ですから、相場が一本調子に上昇したり、一本調子に下落したりした場合でも、それまでの上昇・下落の値幅よりも小さな値幅で、相場がいったん反転して、そこで持ち合い相場を形成することがよくあります。

こういった状態を「揺り戻し」とか、「綾戻し」と言いますが、そういったときに、ポジション調整がよく行われます。

あるいは、ドル/円が上昇傾向にあるときでも、市場参加者の多くがドルを買い、マーケットがドル・ロング(ドルの買い持ち)の飽和状態になると、マーケットが自律的に下落することで、ポジション調整が行われます。

この場合の自律的調整とは、市場参加者がドル・ロングを解消することですから、ドルを売ることです。

つまり、目先の高値を買った人たちが、損切りでドルを売る場面です。

そういったときのマーケットの雰囲気は、非常にドル売りの気配が強くなります。

ポジション調整は、当初の自分の思惑が間違っていたと認めて、反対売買をすることから、弱腰な姿勢と考える人もいるでしょう。

それは、その通りかもしれません。

しかし、相場は、いつも勝てるはずもなく、必ず負けるときがあります。

「ポジションを調整すること」は、体勢を立て直すために必要な、そして、とても重要なテクニックです。

ポジションを調整することは、リスクをコントロールしている状態であり、マーケットの値動きに対応している状態です。

ポジション調整を行わない（行えない）状態は、「フリーズ状態」と同じで、非常に危険です。

ポジション調整を行わなかったり、行えなかったりすることで、残されるポジションのことを、俗に「塩漬けポジション」と呼びます。

+++++

(2019年01月29日東京時間14:30記述)